



▲卒業証書を受け取る卒業生

**思い出を胸に旅立ち**  
町内小学校で卒業式

3月25日、町内小学校において、卒業式が行われました。

宮原小学校では、保護者や在校生の拍手に包まれ、卒業生が入場。木久山校長から一人一人に卒業証書が手渡されると「卒業証書は一所懸命に生きてきたからこそ、手にすることができたものです。自分にできることを進んですることを考えて、宮原小学校の卒業生であることを誇りに思い、夢に向かって、自分を信じて進んで行ってください」とはなむけの言葉が贈られました。

卒業生は先生や保護者に感謝の言葉を伝え、6年間の思い出が残る学舎から旅立って行きました。



▲九州大会での健闘を誓う部員の皆さん

**20年ぶり九州大会出場**  
竜北中女子バレー部激励会

3月25日、役場大会議室において、第32回九州中学校バレーボール選抜優勝大会に出場する竜北中学校女子バレー部20人の激励会が行われました。

竜北中女子バレー部の九州大会出場は20年ぶりとなります。

藤本町長から激励の言葉が贈られると、選手代表の河野未央さん(北野津)は「多くの人によって目標としていた九州大会出場を果たすことができました。大会では練習してきたことを発揮し、熊本県代表の名に恥じない戦いをしてきます」と力強く抱負を語りました。



▲ご家族と一緒に

**祝100歳**  
氷川町長寿表彰

3月30日、100歳を迎えられた松村ラクさんに長寿のお祝いとして藤本町長から、お祝い状と花束が手渡されました。

ラクさんは大正4年生まれで、老人ホーム「やすらぎ荘」で元気に過ごされています。

ご家族にお話しを伺うと、民生委員を18年務めるなど、明るくお世話好きな人で、いつも笑顔で病気もほとんどしたことがないそうです。

記念撮影時ですきな笑顔をご家族に見せてくれました。

ラクさん、これからもますますお元気に過ごしてください。



▲元気に入場する1年生

**期待を胸に新たな一歩**  
町内小中学校で入学式

4月9・10日、町内小中学校において、入学式が行われました。

今年度の新入生は、竜北中63人、氷川中38人、西部小25人、東小32人、宮原小32人です。

竜北東小学校では、ピカピカの1年生が拍手に包まれながら、元気な笑顔で入場。

久保校長の「竜北東小学校の子供たちの目標である『かしこく』『ゆたかに』『たのしく』が全部できる子どもになってください。あいさつをたくさんして、お友だちをたくさんつくってください」というお話に「はい」と元気に返事をしてくれました。



▲見事に優勝を果たした山口さん

**卓越したヘリ技術を披露**  
無人ヘリ安全飛行技術大会で優勝

3月3日に合志市のカントリーパークで行われた「第11回無人ヘリコプター安全飛行技術競技熊本県大会」において、YHファクトリーの山口隆博さん(若洲)・水田大地さん(八代市)ペアが優勝しました。

8組織22チームが出場し、オペレーターと合図マンのペアで、コース上に薬剤に見立てた水を散布しながら、産業用無人ヘリコプターの飛行の安全性と技術の精度を競いました。

山口さん・水田さんペアは11月に茨城県で行われる全国大会に出場予定で、山口さんは「全国大会は5度目の出場です。表彰台を目指したい」と抱負を語られました。



▲おいしいイチゴをプレゼント

**ふるさとの味覚を味わって**  
町内小中学校にイチゴ贈呈

3月12日、八代地域農業協同組合和鹿島いちご部会から町内小中学校にイチゴ2500個が贈呈されました。

役場庁議室で行われた贈呈式では、永田和浩部会長(東網道)から藤本町長に真っ赤に色付いたイチゴが手渡され、藤本町長は「子どもたちは、毎年楽しみにしていると思います。ふるさとの特産物を誇りに思ってもらいたい」とあいさつを述べました。

今年のイチゴは糖度も高く良質な出来となっているそうで、子どもたちは給食のデザートとして振る舞われたイチゴを笑顔で味わっていました。



▲立ち合いに集中して

**土俵際の攻防に声援**  
子ども相撲大会

3月21日、氷川町少年自然の森相撲場(桜ヶ丘)において、第10回子ども相撲大会(氷川町子ども会育成連絡協議会主催)が行われ、21人の子どもたちの参加がありました。

春らしい暖かい陽気の中、男子低学年・中学年・高学年の部、女子の部の4部門に分かれて総当たり戦を行い、子どもたちは一進一退の攻防や土俵際の逆転劇で会場を盛り上げました。

また、競技に先駆けて、健やかな成長を願う行われた「赤ちゃん土俵入り」では、かわいらしい赤ちゃんの姿が会場を和ませてくれました。



▲定住促進へ新たな一歩

**定住促進目指して圏域連携**  
定住自立圏形成協定調印式

3月23日、八代市役所において、八代市・氷川町定住自立圏形成協定調印式が行われました。

この協定は、八代圏域における人口減少、少子高齢化への対策など、単独では解決できない問題を相互に役割分担し、連携協力することにより、圏域全体で必要な生活機能を確保し、人口定住を促進する自治体間連携の取り組みを行うものです。

今後は定住自立圏を確立するため、双方で協議を行いながら、共生ビジョン(具体的な事業計画)策定を進めていきます。